

フィリピン共和国

シボコット，デル・ガレゴ総合開発計画

プロジェクト ファインディング調査

報 告 書

1994年10月

社団法人 海外農業開発コンサルタント協会

ま え が き

本調査団は、平成6年10月15日より10月26日まで、フィリピン共和国において、シボコット、デル・ガレゴ総合開発計画に関する現地調査を実施した。

現地においては、本プロジェクトに関して、比国側関係者より必要な情報を収集するとともに、今後のプロジェクトの方向づけなどについて協議を重ねた。また在比日本国大使館をはじめ、日本国在外公館より貴重なご意見を頂くこともできた。

本プロジェクトは、日本よりの経済協力案件としてフィリピン側では高いプライオリティが与えられていて、今後の展開が期待される。

最後に、我々調査団に対して適切な助言とご指導を賜った、在比日本国大使館、比国農業省、国家経済開発庁をはじめとする両国政府関係機関に対し、深甚なる謝意を表したい。

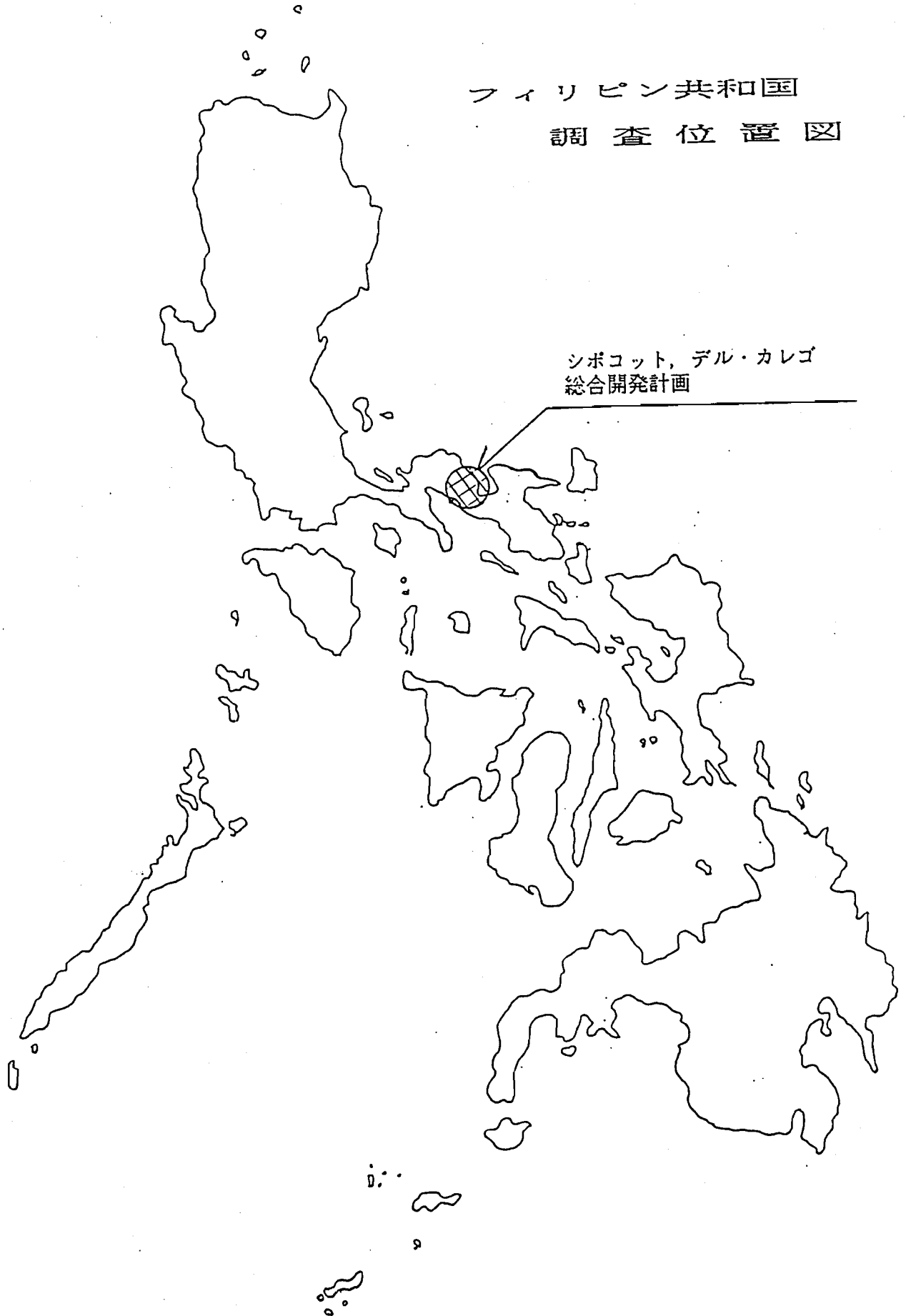
平成6年11月10日

A D C Aプロジェクト・ファインディング調査団

稲 葉 大 策

(株式会社 建設企画コンサルタント)

フィリピン共和国
調査位置図



目 次

ま え が き

調 査 位 置 図

	頁
1. プロジェクトの背景と経緯	1
2. プロジェクト・エリアの現状	2
2.1 自然条件	2
2.2 社会的条件	2
3. プロジェクトの概要	3
3.1 プロジェクトの目的	3
3.2 プロジェクトの構成	3
3.3 コンポーネントの概要	3
4. プロジェクト・コスト	4
5. 実施機関	4
6. 調査団所見	5

添付資料

- 1) 調査団員略歴
- 2) 調査日程
- 3) 面談者氏名

1. プロジェクトの背景と経緯

当該プロジェクト・エリアは、カマリネス・スール州の北西部に位置し、エリアの北部はカマリネス・ノルテおよびケソン州との境界域となっており、南部はラガイ湾に面している。当該プロジェクトの対象となるのは、シボコット、ルピー、ラガイ、デル・ガレゴの4つの郡であり、国営鉄道沿いに郡庁が存在する。この4つの郡には合計で154の村落（バランガイ）が存在し、4郡合計の面積は約10万haであり、人口は約144,000人である。

このプロジェクト・エリアで問題となっているのは、以下の通りである。

- 1) 低生産性と低収入
- 2) 雇用機会がないための域外への住民流出
- 3) 8万ha以上のココナッツの単一栽培
- 4) 漁師による漁場での乱獲
- 5) 公共事業投資が少ない
- 6) 農業・漁業および家内工業に携わる人の技術レベルが低い
- 7) 適正技術導入程度が低い
- 8) 投資に対するクレジットの利用が不十分

一方、当該プロジェクト・エリアは、台風の通過地帯であるにもかかわらず、降雨の変動が少なく肥沃である。また米作、畑作双方にとって集約農業を行うのに適した地区がかなり存在する。

こうした事実を踏まえたうえで、プロジェクト・エリア内の貧しい人々（大半がそうである）への雇用機会創造と住民の収入増が期待できるような開発の必要性が高まってきた。また当該プロジェクトは、フィリピン国の施策である農業生産性の向上と農村貧困の根絶といったテーマにも合致し、開発計画の中でも高いプライオリティが与えられている。

プロジェクトの経緯は、以下に示す通りである。

- 1981年 ビコール開発公団により当該開発計画が策定された。
- 1982年 ビコール開発公団内エンジニアにより予備調査が実施され、その結果当該プロジェクトが州政府開発プロジェクトに組み込まれた。
- 1984年 予備調査をベースに開発調査が実施された。
- 1985年～1986年 調査中断
- 1987年 調査終了、レポート完成。

上記の調査レポートは、フィジビリティ・レポートと見なされ、次のような構成となっている。

- Main Report : Executive Summary
- Vol. 1 : Situational Resource Analysis
- Vol. 2 : Agriculture
- Vol. 3 : Infrastructure
- Vol. 4 : Complementary Projects
- Vol. 5 : Project Management Office
- Vol. 6 : Project Justification

2. プロジェクト・エリアの現状

2.1 自然条件

土壌は大きく8つのに分類されるが、主に沖積土が中心となる。地形的には起伏が激しい。プロジェクト・エリア内には2つの雨量観測所があり、年平均雨量は2,744mm(1977~1985)であった。雨期は6月初旬より1月下旬までである。1983年の6月には最高気温平均29.7℃で、1981年の1月の最低気温平均は24.4℃であった。エリア内には4つの河川が存在し、そのうちで最大のものは Sipocot Riverである。

2.2 社会的条件

プロジェクト・エリア内の人口は、1987年で144,206人で Sipocot : 70,053人、Lupi : 23,054人、Ragay : 37,354人、Del Gallege : 13,745人と各々なっている。1980年より1985年までの年平均人口増加率は3.61%とかなり高率である。人口密度はエリア内平均で約140人/km²となっている。産業構造として、農業が主体となっている。土地利用形態として全体の43%が農業生産に利用されている。主要作物は、ココナッツ、米、とうもろこしである。インフラストラクチャーの現状として、道路は約501kmの道路延長、密度0.485km/km²である。村落給水施設は、Level 1で270地点、Level 2で5地点、Level 3で3地点に存在するが、全住民の40%しか給水施設の恩恵をこうむっていない。灌漑農業を実施しているのは、1984年データで、雨期232ha、乾期298haしかない。

3. プロジェクトの概要

3.1 プロジェクトの目的

プロジェクトの主要な目的は以下のように要約できる。

- 1) 生態系バランスの崩壊を阻止するために適切な流域伐採監理体制の強化
- 2) 農産物の収量増加と雇用機会の創出
- 3) エリア内の社会経済状態を改善するためのインフラ施設の整備

3.2 プロジェクトの構成

大別して次の3つのカテゴリーに分類できる。

- A. 農水産物の生産性向上を目的とした分野
- B. インフラストラクチャー分野
- C. プロジェクト監理、評価分野

本プロジェクトが計画された時点では、コンポーネントとして10項目が列挙されていた。しかし、分野が多岐に亘ることから、近年になって原計画をフェーズ分けし、特に緊急性の高い4コンポーネントに絞って実行に移すべきとの意見に集約された。下記は、旧計画（10コンポーネント）と改訂計画（4コンポーネント）を比較した表である。

旧 計 画	改 訂 計 画
1. 灌漑開発 2. 森林監理および畑作振興 3. 天水農業システム開発 4. 協同組合強化 5. 農林水産関連加工業育成 6. 水産業開発 7. 道路建設 8. 村落給水 9. 村落コミュニティー強化事業 10. プロジェクト監理、モニター評価	1. 森林資源再生および環境保全 2. 高地天水農業地帯の整備および低地灌漑面積の拡大 3. 協同組合事業の充実 4. 農産物搬出道路（Farm-to-Market Road）の整備および関連橋梁の建設

3.3 コンポーネントの概要

3.3.1 森林資源再生および環境保全

1) 種苗育成

森林資源再生のため、地区内4地区に育苗畑を造成し、10年計画でプロジェクト対象地域 1,776haに植林を行う。

2) 森林保護

既存林野および新規植林地域に対し、防災（防火）計画を立案し、実行に移す。

3) 森林地域保全

林地と農地および混植地の区分と、そのローテーションを計画的に行う。特に果樹林を育成し、その樹間利用を計画する。

3.3.2 高地天水農業地帯の整備および低地灌漑面積の拡大

- 1) 高地は従来ココナッツのモノカルチャーであったが、適正間作作物の選定を行い、収益性の向上を図る。
- 2) 灌漑網の整備を行い、灌漑面積（稲作）の増大を図る。

3.3.3 協同組合事業の充実

- 1) 協同組合員が持つ問題点を把握し、対応を図る。
- 2) 教育および普及事業の振興を図る。
- 3) 地域指導者の育成を図る。
- 4) 地域農業融資制度を確立する。
- 5) 精米所を建設する。

3.3.4 農産物搬出道路の整備および関連橋梁の建設

- 1) 道路建設用機材を調達し、指定路線約 350kmの拡幅（4.0 m幅と1 mのショルダ）と全天候化を図る。
- 2) 橋梁を架設する。

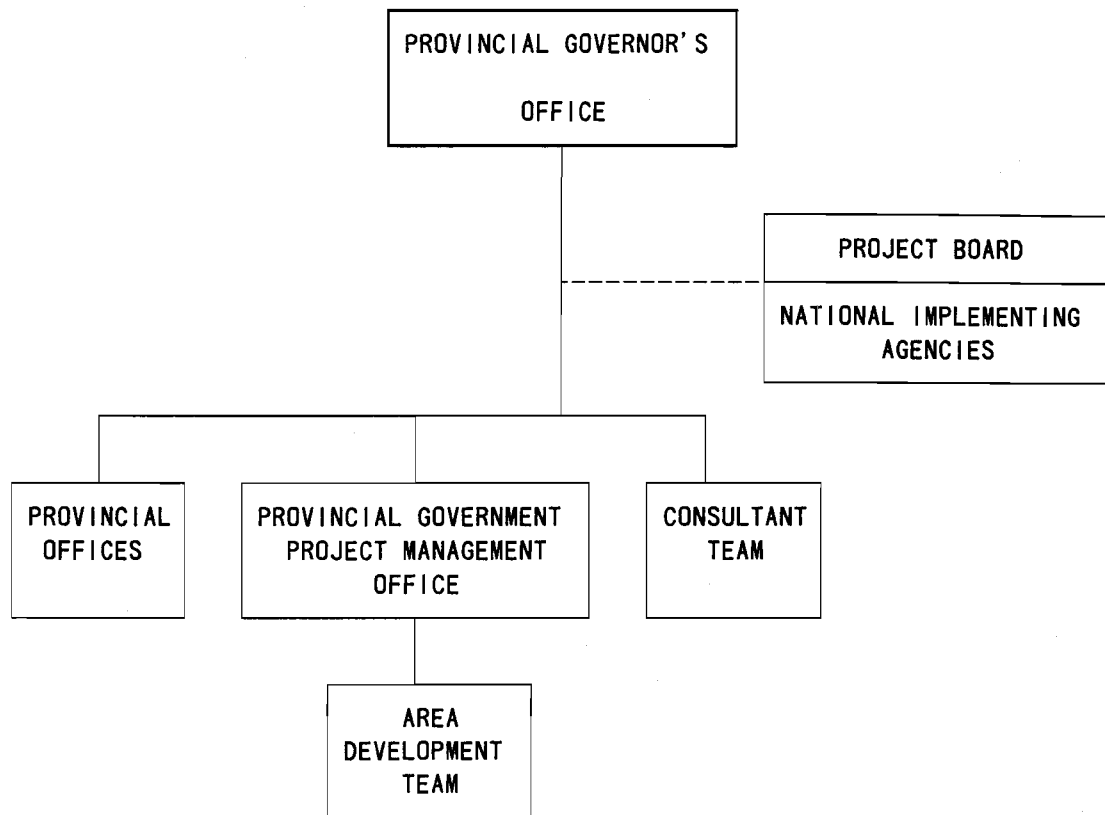
4. プロジェクト・コスト

プロジェクトの総費用は 808.098百万ペソで、外貨分 519.263百万ペソ、内貨分 288.835百万ペソと見積られている。

5. 実施機関

プロジェクトの実施機関は、カマリネス・スール州政府である。この州政府内にプロジェクト監理委員会が設立され、各コンポーネントを実施する機関を統合する。次図に一般組織図を示す。

PROJECT ORGANIZATION AND COORDINATION STRUCTURE



6. 調査団所見

本案件は、16次の対日円借款要請リストにあげられたプロジェクトであり、比側の N E D A 内の I C C (Invenstment Coordination Committee) の Cabinet Committee も通過した高いプライオリティを持つプロジェクトである。しかし、プロジェクトのコンポーネントが種々多岐に亘っていたために、複雑なプロジェクトとして捉えられる傾向があり、今日まで実現しなかった。しかし、究極の目的は農業生産性のアップによる農民の生活レベルの向上にあるため、当該プロジェクトは農業開発プロジェクトの範疇に入りうるものであり、今度、優先度の高い 4 コンポーネントに絞って早期実現を狙っている。コンサルタントとしては、日本政府の経済援助により、一日も早くプロジェクトが実施されることを望んでいる。

添 付 資 料

1) 調査団員氏名

株式会社 建設企画コンサルタント
海外本部 第二事業部長 稲葉大策

2) 調査日程

日 程 表						
日数	年 月 日	曜 日	出 発 地	到 着 地	宿 泊 地	備 考
1	H6.10.15	土	成 田	マ ニ ラ	マ ニ ラ	出 国
2	16	日			マ ニ ラ	現地コンサルタント打合せ
3	17	月			マ ニ ラ	経済開発庁、灌漑庁訪問
4	18	火			マ ニ ラ	大使館訪問
5	19	水			マ ニ ラ	大蔵省訪問、資料収集
6	20	木			マ ニ ラ	地方自治省訪問
7	21	金	マ ニ ラ	ナ ガ	ナ ガ	移 動
8	22	土			ナ ガ	現地調査
9	23	日			ナ ガ	現地調査
10	24	月			ナ ガ	州政府訪問
11	25	火	ナ ガ	マ ニ ラ	マ ニ ラ	移 動
12	26	水	マ ニ ラ	成 田		帰 国

3) 面談者氏名

- 在比日本国大使館 山内勝彦 一等書記官
- カマリネス州 ブラオン知 事
- カマリネス州庁開発室 フォルトゥノ 室 長
- 他